

実践テーマ 望ましい集団生活を目指した愛校活動

日立市立大みか小学校

1 はじめに

「望ましい集団活動の活性化と自主的・実践的な態度を育てる特別活動の在り方」の考え方を基本として活動を行った。時や場所や学年を問わず、親和的な人間関係や児童の自主性を尊重できる環境と働きかけを目指して実践を行った。



2 実践事例

(1) 奉仕活動

ア 意図的な仕掛け

- (ア) 全校行事の持久走記録会が開催される頃、学校周りの木々が色づき多くの葉を落とす。担当教諭が落ち葉掃きをしている様子を見た6年生が自発的に活動を始め、自分たちが使用するグラウンドをきれいにした。始まりは意図的な教師の仕掛けからではあるが、その後は児童らが自発的に考え行動している活動である。
- (イ) 「行動力」を高めるには、教える側の行動力が必要である。校長が最前線で率先垂範をしている姿が、子ども達の活動をより活発化させた。
- (ウ) 校内における奉仕活動に加え、6年生の修学旅行でも奉仕活動を行った。学校の代表としての誇りや自覚を大切に、学校内外で愛校心をもって活動できるよう計画をした。計画は児童が主体的に行い、参加に関しても児童の主体性を尊重し、希望制とした。



(2) あいさつ運動（集会委員会）

ア 毎週月曜日に実施

- (ア) 集会委員会によるあいさつ運動は、原則、毎週月曜日に行った。毎週実施することで、あいさつすることの大切さを継続的に全児童に伝えることができた。活動を続けることで、あいさつができるようになった児童や、率先してあいさつができるようになった児童が増えた。

イ 楽しむための工夫

- (イ) 「大みか小クイズラリー」を実施した。クイズを掲示し、全校児童が積極的に参加した。クイズの答えを集めると、集会委員会からのメッセージ「げんきにあいさつをしよう」となり、あいさつに対する意識を高めることができた。

3 成果と課題

落ち葉掃きを主体的に活動する姿が見られ、愛校心や自主性が育まれた。高学年が主体となる活動が多かったため、低学年・中学年が主体となって行う活動を増やしていくのが課題である。